

笠岡湾干拓地での飼料用トウモロコシ栽培における
課題と対策の検討：岡山県備中県民局畜産第一班
田中康裕

笠岡湾干拓地では実面積 200ha 以上で飼料用トウモロコシ（二期作）を栽培。① 10ha 程のほ場では内部の生育状況の把握が困難なため、実収量が予測を下回ることがある。② イノシシによる獣害の防止が課題。①について、衛星画像の AI 分析による栽培管理システムの葉面積指数（LAI）、正規化植生指数（NDVI）及びドローンによる空撮を利用し、ほ場内部の生育状況や収穫適期の情報を生産者と共有。収穫時期及び順序の判断材料とした。LAI 及び NDVI と収量の相関を調べたが、相関性は低かった。今後は生育データに基づく部分的深耕等の実施による収量向上への活用を検討。②について、令和 6 年冬期からイノシシ被害の多い 3 ほ場（計 30ha）の周囲にワイヤーメッシュ（WM）を設置。イノシシ被害の状況を空撮写真の倒伏状況等で確認。過去にイノシシ被害で約 9 割が倒伏したほ場で被害が見られなかった。WM 設置は、栽培管理終了後早期に出入口を封鎖することでイノシシ被害防止に効果あり。